



①「あずき工房 やなぎた」が店を構える春日町東中は、「丹波大納言小豆」発祥の地として名高い。この地で栽培される「黒さや小豆」は、数百年の時を経た現在でも、品種改良を行うことなく、当時のままに受け継がれています
②「あずき工房 やなぎた」の柳田明子さん
③ 300 年以上前、京都御所にも献上されていた「丹波大納言小豆」。昼夜の気温差や豊かな土壌に育まれた丹波市が誇る逸品です



「丹波大納言小豆」でつくったおはぎ。大粒で、光沢があり、とてもおいしいそう

「ありがとう」の言葉がもつ魅力
ありがとうがあふれるまちづくりを進めています。「ありがとう」の言葉がもつ魅力

やエピソードについても、みんな語り合いたいと思います。どうぞよろしくお願いします。
クミコ こちらこそ、本日は、お招きいただきありがとうございます。
お招きいただきありがとうございます。
お招きいただきありがとうございます。

クミコ うまくできた名前だなあ。
村上市長 クミコさん、今まで食べたおはぎと少し違いますか。
クミコ これまで食べたおはぎは、たいがいがいしあん。これは、粒がしっかりといて、とってもおいしい。それでいて、まったく口の中で邪魔にな

村上市長 その鹿が農作物を荒らすんです。その対策として、年間2,000頭ほどを駆除しているのですが、その大半が山に埋められています。しかし、豊かな恵みを食して育った鹿は貴重な地域資源ですから、食材や加工品として有効活用を図っているんです。

村上市長 本日は、私がNHKのアナウンサー時代から懇意にさせていただいています、歌手クミコさんに、はるばる丹波市まで

お越しいただきました。クミコさんは、2010年にNHK紅白歌合戦に出場し、翌年には、石巻市で東日本大震災に遭遇。その後、彼女の歌は、被災された多くの人々の心の支えとなりました。クミコさんには、被災地で感じた「歌の力」についてお話を聞かせたいと思います。

市市長 私もみなさんと語り合えるこの日を楽しみにしております。よろしくお願いします。

クミコ 確かにあたりを見渡すと山が多い。鹿もたくさん生息しているんですね。
市市長 その鹿が農作物を荒らすんです。その対策として、年間2,000頭ほどを駆除しているのですが、その大半が山に埋められています。しかし、豊かな恵みを食して育った鹿は貴重な地域資源ですから、食材や加工品として有効活用を図っているんです。

村上市長 よかったですね。最近では、鹿肉も盛り上がっているようです。
クミコ 確かにあたりを見渡すと山が多い。鹿もたくさん生息しているんですね。
市市長 その鹿が農作物を荒らすんです。その対策として、年間2,000頭ほどを駆除しているのですが、その大半が山に埋められています。しかし、豊かな恵みを食して育った鹿は貴重な地域資源ですから、食材や加工品として有効活用を図っているんです。

故郷のぬくもりが感じられるまち・丹波市



撮影協力 「あずき工房 やなぎた」(春日町東中)

「ありがとう」でつながる未来

歌うことで東日本大震災の被災者の心の支えになった歌手クミコさん。

「嬉しい言葉の種まき」をしながら全国の人々に笑顔を届ける村上市長。

「ありがとうプロジェクト」で丹波市をありがとうであふれるまちにしたいと願う市市長。

そんな3人が、「歌の力」や「ありがとう」の言葉がもつ魅力について考える、スペシャルトーク。

スペシャル座談会

歌手

クミコ



丹波市長

辻 重五郎



元NHKエグゼクティブアナウンサー

村上信夫





クミコさんは、6月22日（土）に春日文化ホールで行われた「第3回たんば・ときめきカルチャー」に友人の村上信夫氏とともに出演。

被災者の心の支えになった歌声や村上信夫氏との軽快なトークを披露し、会場を大いに盛り上げました。

クミコ 実は、東日本大震災の日、私は石巻市でコンサートをするこ
とになっていました。そこには
2つの会館があつて、事前に「会
場は海側・山側のどっちにしま
すか」って事務所に連絡が入って
いたんですね。私は山が好きなの
だから、山側での開催に決まった。
それで津波から逃れることができ
たんです。
村上 地震直後はどうしたのです
か。
クミコ 会館の後ろに高台があつ
て、そこに避難しました。高台に
登った途端、津波がまちを襲って
きたんです。本当に山に助けられ
た思いでいっぱいですね。

村上 でも、クミコさんは、震災
後の3カ月くらい、歌うことをや
めようかと思うぐらいに落ち込ん
でしまったんですね。
市長 実際に、まちが津波に飲み
込まれるさまを目の当たりにする
と、とてもそんな気持ちにはなれ
なかったんでしょうね。
クミコ 歌を歌つても、みんな
がお腹いっぱいになるわけでも
ない。歌がみんなのエネルギー
にはならないと思っちゃったん
です。でも、震災から3カ月くらい
経ったころ、再び石巻市で歌う機
会があつて、その時はじめて私の
考えは間違っていたんだと気付い
たんです。歌い終わった後、「泣



辻 重五郎

1939年生まれ。元中学校教諭。元氷上郡教育委員会教育長。平成16年に初代丹波市長に就任し、現在3期目。無所属。好きな言葉は「人生二度なし」

「無力に感じていた自分を被災者が救ってくれた」

scene 2 被災者が教えてくれた「歌の力」



村上 そう、人はあつたかいし、ほつとくつろげる雰囲気がある。何か懐の深さみたいなものを感じますね。でも、クミコさんや私のように、普段都会に住む者には宝物に感じ

村上 信夫

1953年京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。2001年から11年にわたり、「ラジオビタミン」や「鎌田實いのち対話」など、NHKのラジオの「声」として活躍。現在は、全国を講演で回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送「日曜はがんばらない」などで新たな境地を開いている。

村上 昨年、丹波市に來られたグッチ裕三さんに言わせると、このあたりの鹿は、山でマツタケを食べて育っている所以他のとは違うんだって。
市長 ちなみに、諸説ありますが、

「丹波」の由来は、丹（あか）い日の出と海の波を表すような雲海が発生することからきているとも言われているんですよ。
クミコ 「丹」は「赤い」とも読めるんですね。知らなかったな。市長 赤色のほかに「丹精を込めて」や「丹念に」などの言葉にあるように、「まごころ」という意味があります。市では、「丹（まごころ）の里」をスローガンに掲げたまちづくりを進めているんですよ。
クミコ まごころある市民のみなさんが、長年の間、豊かな自然を守り、現在まで受け継いでこられたんですね。都会からも近い丹波市は、みんなにとって第2の故郷になる可能性を秘めているんじゃないかな。

クミコ

1982年にシャンソニエの老舗「^{ぎんぱり}銀巴里」でプロ活動をスタート。02年「わが麗しき恋物語」が、聴くものすべてが涙する歌としてヒットし、一躍脚光を浴びる。2010年には、「INORI〜祈り〜」をリリース、第61回NHK紅白歌合戦にも初出場。2011年3月11日、コンサートで石巻を訪れた際に、東日本大震災に遭遇。2012年には、震災1年を機に「きつとツナガル」を発売。2013年からは歌謡曲にも挑戦し、5月にはシングル「サヨナラをあげる」をリリース。



るものも、そこに住んでいる人たちには当たり前なものになっている。外から来た人間から聞かされてあらためて「そうなんだ。これってすごいんだ」と気付くこともあるんじゃないかな。
市長 それで私はいつも言うんです。「こんなものは他に行ってもそうはない」と。「常に山や川など、豊かな自然に向かって『すごいね、ありがとう』って言わないといけないよ」と。
村上 NHKのアナウンサー当時、初任地の富山で北アルプスを眺めていると、山が男性的に迫ってくるように感じたんです。でも、こっちは山はなだらかで、どこか女性的なやさしさを感じるんです。見ていてとつても落ち着くし、目に優しい山だなんて。
クミコ 私も山が大好きなんです。昔から電車に乗っていても、山に近づいて来ると急にうれしくなるんですよ。でも、海に行くと元気がなくなる。実は、この「海は苦手。山が好き」ってことがきっかけで命が助かったんです。

かせてくれてありがとう」「明日からまた頑張れます」ってたくさんの方から言葉をいただいたんですね。それでわかったんです。みんな泣くことを我慢していたんだと。
市長 歌が、これまでずっと溜め込んできた思いを素直に吐き出させてくれたんですね。
村上 私も当時、折にふれ、ラジオで震災の話題を取り上げていたのですが、クミコさんが歌の力について悩んでいたように、私も言葉のもつ力について悩みました。あのような凄まじい状況のなかで、何を言っても空々しく聞こえてしまうのではないかと。
クミコ 傷ついた人たちを目の前にすると、正直、どうやって声をかけたらいいのかわからない。「がんばって」とか「これからよくありませんよ」なんて簡単には言えなかったです。そんな時、幸いにも私には歌があった。「友だちと手を重ねよう」なんて歌うと、みんなが手と手を取り合って涙してくれた。「ああ、歌手をやっていたよかった」「歌の力ってこんなにすごいんだ」って被災者のみなさんが私に教えてくれたんです。



scene 3 「ありがとう」は魔法の言葉

『ありがとう』でつながるまち・丹波市をめざして

クミコ 辻市長は中学校の教師をされていたと伺ったのですが、教師をやっていたよかったと思うことは何ですか。

市長 人を育てる喜びですね。生徒は日々成長していきます。できなかったことができるようになっていく。消極的であった子が積極的になっていく。その過程を間近で感じられることが最大のやりがいです。また、人を育てることで自分も成長できる。すばらしい職業ですよ。

村上 「教え子の力」ですか。

市長 彼らから学ぶことは多かった。随分厳しい先生だったと思いますが、今でも出会えば「先生」って声をかけてくれるんですよ。

クミコ 市長をやっていて一番うれしい瞬間は。

市長 市民のみなさんから「ありがとう」と声をかけてもらうときですね。7万人近くの市民のみなさんが生活するこのまちで、責任あるポジションを任せてもらっている。市

長として市政を舵取りするなかで、うまくことが進んだとき、市民の方から「ありがとう」などと声をかけていただくことは、とても励みになります。

村上 先ほど、市長も「ありがとう」についてふれておられました。クミコさん、丹波市で、「ありがとうプロジェクト」を推進しているのを存じですか。

クミコ 「普段の生活のなかで、ありがとうを言い合おう」みたいなことです。

村上 その通りです。数年前、県立柏原病院の小児科の医師たちが人員不足による過酷な勤務を強いられ、次々とやめていったんですね。その結果、小児科が存亡の危機に陥った。そんな時、市内のお母さんたちが、日ごろの感謝の気持ちをお医者さんに伝えようと「ありがとうポスト」を設置して、「先生いつもありがとう」「いつもご苦労さま」っていうメッセージを届けたんです。その気持ちがお医

者さんたちに届いて、医師が少しずつ戻って来た。子をもつお母さんたちの活動が、地域医療の再生に大きな役割を果たしたんです。

クミコ それはすごい。「ありがとう」がもつ言葉の力ですね。市長 この運動をお手本として、丹波市では、「ありがとうプロジェクト」をスタートさせました。今では、全国から心あたたまるありがとうのメッセージを募集し、村上さんには審査委員長としてお世話になっているんです。

村上 クミコさんも、震災発生から3カ月後に石巻市を訪れた時、たくさんの「ありがとう」に出会われたのではないですか。

クミコ 石巻市に行くと「ありがとう」の風です。現地のイントネーションで「ありがとう」って言われると、私も「ありがとうね」って急になまっちゃったりしてね。私からは、「みなさんのおかげで歌を歌えるようになった。ありがとう」っていう気持ちがあったし、石巻市の人たちは、「歌ってくれてありがとう。泣かせてくれてあ

りがとう」って言うてくれました。当然、人は他のだれかと支え合わないと生きていけない。「ありがとう」を言うことで、お互いに支え合って生きているという実感が湧くんだと思うんです。

市長 「ありがとう」と言わなくても相手に伝わるって言う人もいますけど、やっぱり口にする大切さはありますね。例えば、家族同士であっても。

クミコ 私の母が骨折した時には、お風呂に入れたりとか、何から何までしてあげていたんです。そうしたら、「ありがとう、ありがとう」って、何度も言うんです。一生分のありがとうを言われちゃったみたいで。その言葉が励みになって、もつと母のためにがんばろうって気持ちになりましたね。

市長 今は、どこか自分ひとりでも生きていけるみたいな風潮があるのでしょうか。昔に比べて「ありがとう」を言う機会が少なくなった。でも、実際は、やっぱり人は支え合って生きているんですよ。



「ありがとう」の話題にうつり、自然と笑顔が増えてくる3人。それぞれが思い出に残る「ありがとう」のエピソード話を繰り広げました

クミコ 間違いなくそうですね。東日本大震災で被災された人々がそれを教えてくれました。

市長 最初は形から入っても、後から気持ちがついてくると思うんです。「ありがとう」はそんな魔法の言葉だと思うんです。

村上 その通りですね。それに、「ありがとう」を口に出して言うことで、言われた方はもちろん、言った方も幸せな気持ちになれる。まさに魔法の言葉ですね。

クミコ 「ありがとう」と笑顔はセットでしょ。だから、「ありがとう」があふれるまちは、笑顔があふれるまちってことです。本当に素敵だなあ。

市長 丹波市でも少子高齢化が進むなか、「人や地域のつながり」がますます重要になってきます。「ありがとう」が広がることで、住民同士の連帯感を高め、地域がまるで一つの大きな家族のようになれば、豊かさや安心を実感できる社会になるのではないでしょう

か。「ありがとう」がもつ力はそれぐらい大きなものと考えています。

村上 クミコさんには、これからも歌手として「歌の力」で人々に幸せを運んでいただくとともに、今後ますますのご活躍をお祈りします。

また、丹波市では、今年も「言えなかったありがとう」をテーマに、心あたたまるありがとうのエピソードを全国公募します。私もありがとうの種をまくひとりとして、ありがとう、そして、笑顔があふれるまちづくりに向け、貢献できればと考えています。

本日は、ありがとうございます。



市長から特産の「丹波黒さや大納言小豆」をプレゼントされ笑顔のクミコさん